



2025年の中国

— 日中関係を中心に —

有度国際セミナー

諏訪一幸

2025年11月15日

<構成>

1. はじめに（13年目の習近平中国）
2. 内政（20期4中全会）
3. 外交（米中、中口）
4. 日中関係
5. 2026年の中国

1. はじめに（13年目の習近平中国）

- （1）内外ともに際立つ党と指導者の「強さ」
- （2）側近軍人をも排除
- （3）習近平中国には勝ち目のないトランプ米国
- （4）侵略者プーチンロシアとますます良い仲に
- （5）高市新首相の歴史認識と台湾政策を注視

2. 内政：20期4中全会（第20期中国共産党中央委員会第4回全体会議）の開催

- （1）2025年10月20日～23日
- （2）1億人余りの党員から選ばれた300人余り（中央委員、中央候補委員）が出席
- （3）主な議題
 - ①第15次5カ年計画（2026～30年）原案の審議採択
→ 来春の国会（全人代）に党の方針として提案
 - ②軍人事

(4) 第15次5カ年計画：現状、課題、目標

- ①「過去100年なかった国際情勢の変動」という認識の下、国際社会をリードする意欲
→ 衰退する米国
- ②科学技術の発展（革命）重視
→ 中国の技術大国化は習近平の功績
- ③具体的な数値目標なし
- ④守るべき最大の原則は「党の全面的指導堅持」
→ この考えが、蔓延する汚職の原因？

- ⑤2035年には「経済実力、科学技術実力、総合国力を新たな段階へ」（2022年時点）から「経済実力、科学技術実力、国防実力、総合国力及び国際影響力を大幅に上昇させ、1人当たりGDPを中レベル先進国並みに」
→ 米国を意識する表現を追加

⑥「大学卒業生、農民工、退役軍人等の就職の安定化と拡大化」

→ 若年層(16~24歳)の失業率は？

⑦「安全、快適で、環境に優しく、先端的な“良い家”建設」

⑧「強さ」の強調

→ 採択された提案では「強」が212回登場

→ 16分野に広がる「強国」（製造、品質、宇宙、交通、ネット、教育、科学技術、人材、金融、貿易、農業、海洋、文化、スポーツ、旅行、エネルギー）と「強軍」（改革、科学技術、人材）

→ 「強国」と「復興」（中華民族の偉大な復興）
が諸悪の根源

→ 例 「台湾有事は存立危機事態になりうる」との高市発言
に対し、薛劍・総領事「勝手に突っ込んできたその
汚い首は一瞬の躊躇もなく斬ってやるしかない」

(5) 軍高官人事

①中央軍事委員会メンバーは当初（2022年10月）7名

- その後、1名解任（2024年6月、李尚福）
- 今回、副主席の何衛東（中央政治局委員）、同委員の苗華及びその他7名の党籍剥奪を追認（李を含め、紀律違反の疑い）
- 多くが習近平の子飼い。何を意味？

②今回、同委員の張昇民が副主席に昇格

- 補充はなく、軍事委は引き続き4人体制

3. 外交

(1) 米中（首脳会談の開催と通商交渉）

①トランプ・習近平会談（10月30日。釜山）

- 習近平「誰かに挑戦したり、その地位に取って代わるつもりはない」。本当？
- 中国政府によると、「トランプは来年早い時期の訪中に期待し、習近平の訪米を要請した」
- トランプによると、訪中は4月。しかし、中国側の表現は慎重

②副首相レベルの通商交渉

(ベッセント・何立峰。10月25日～26日。
クアラルンプール)

- レアアースという強い「カード」を持ち、
長期戦に強い権威主義国家中国に軍配
- 米国の「フェンタニル関税」10%引き下げ
措置に対し、中国も大豆や液化天然ガス
等に課していた報復関税を引き下げ

- 米国が輸出管理規則の適用拡大措置を1年
延期することに対し、中国はレアアース5種
類を新たに輸出管理の対象とする措置の
発動を1年延期
- 1年後に再交渉が必要
 - しかし、ホワイトハウスは11月1日、
「過去の規制も『事実上の撤廃を意味す
る』」と発表
- その他（中国が大豆など米国農産物を大量
購入。中国が米国産エネルギーを購入）

(2) 中ロ

①首脳交流（第二次大戦終結80年記念行事）

②中国・ウクライナ関係

- 「ウクライナ危機に関し、王毅外相は、中国側は常に和平のために奔走し、話し合い促進のために努力している」（2月15日。対ウクライナ外相）
- 「我々は中国がロシア領内で何らかの武器の製造に携わっていると考えている」（4月17日。ゼレンスキー大統領）



北京（9月3日。「150歳まで生きられるぞ！」）
<https://mainichi.jp/articles/20250908/k00/00m/030/142000c>

4. 日中関係

(1) 「抗日戦争勝利80周年」の年

①4つの記念日

- 7月7日（盧溝橋） 9月3日（降伏署名翌日）
9月18日（柳条湖） 12月13日（南京）

②評価が異なる二つの映画

- 好意的評価の「南京写真館」
- 火だるまの「731」

③軍事パレード（9月3日）

- 習近平スピーチ「80年前、中国人民は14年に及ぶ血みどろの戦争を経て、日本軍国主義侵略者を徹底的に打ち負かした」
- 「8年から14年」になった意味とは？
- 三人（習近平、プーチン、金正恩）揃踏み
- 外国人賓客数は10年前より減少
- 多数の新兵器

(2) 日中首脳会談 (10月31日。APEC、韓国慶州)

①初の高市・習会談

→ 首相就任(10月21日)祝電なし。開催なし？

②高市発言

→ 「両首脳は、『戦略的互惠関係』を包括的に推進し、『建設的かつ安定的な関係』を構築するという日中関係の大きな方向性を改めて確認しました」 (外務省)

→ すべての懸案について、言うべきことを言ったという印象。ただし…

③習近平発言

→ 「戦略的互惠関係促進」に言及

→ 歴史問題でクギ

→ 「“村山談話”は日本侵略の歴史を深く反省し、被害を受けた国に謝罪した。この精神はしっかり表す必要がある」

→ 日本側発表に、歴史問題に関する高市首相の発言なし

→ 協力を望む分野として、先進製造業、デジタル経済、環境分野、医療介護等を列挙

④一回の首脳会談（会見）での関係改善は困難

→ 日本

→ 首相交代直後で、十分な準備できず

→ 高市首相の対台湾政策

→ 日中首脳会談の翌日、台湾代表の林信義元行政院副院長と会談

→ 中国

→ 第二の経済大国に今の日本の経済力や技術力を求める必要性は低い

→ 加えて、「発展より安定」の習近平

→ 米中対立構造の影響を強く受ける日中

→ 「米中関係が改善すれば、日本もついてくる」という発想？

→ 世界の中心になりつつあるという自信

→ 習近平の対日観

(3) 習近平の対日観

- ①日清戦争（1894～95年。台湾割譲）以降は「日本の侵略によって始まった100年の屈辱史」との認識？
- ②「近代に入り、西側列強は数十回にわたって黄海と渤海からわが国に侵入した。とりわけ、1894年の中日甲午戦争（日清戦争）では北洋艦隊が全滅し、清朝は主権喪失、国家にとって屈辱的な馬関条約（下関条約）への署名を強要された」

- ③「一部のアジアの国は釣魚島、南海等の島嶼の帰属と海上境界線問題でもめ事を引き起こしている」「我々は、釣魚島の主権護持のための闘争を行い、東海防衛識別圏を設けて常態化管理を行い、南海での島礁建設を加速したことで、海洋を治め、海洋権益を守るという歴史的突破を実現した」
→ 「日本と良好な関係構築」の必要性を感じているのか？

5. 2026年の中国

(1) 内政 第4期(2027~32年)を見据えた習近平

①5年に一度の党大会前年

→ 健康であれば、後継者選出の動きはない？

②経済好転の兆しなく、不満は強権で抑圧

(2) 外交 課題は対米勝利

①APEC議長国として、派手なホスト国外交展開

②トランプ訪中は実現するか？

③日中関係に大きな改善は見込まれず

(3) 台湾 引き続き圧力強化

「軍事は政治に従属し、軍事的戦略は政治的戦略に従属するとの方針を堅持し、政治的大所高所から戦争問題を考えなければならない」「政治上の必要性があれば、軍事的困難や危険があっても、断固行動を起こさなければならない」

(2013. 7. 15)

**ご清聴ありがとうございました！
谢谢！**